

第1回地方創生推進委員会協議録

1. 日時:平成27年7月10日(金)13:30~17:00
2. 場所:串木野庁舎 地下大会議室
3. 出席者:石田委員長 萩野委員 前原委員 春田委員 尾野委員 川崎委員 赤岩委員
早崎委員 福岩委員 川田委員 西田委員 久木園委員 前屋委員 久木山委員
本田委員 塚田委員 松元委員 濱寄委員 平尾委員 住廣委員 東委員 中屋委員
事務局:田中政策課長 出水政策課長補佐 勝田主任 橋之口主任 西ノ園主事
鹿児島経済研究所(市坪企画戦略部長 下笠主任研究員)
オブザーバー:鹿児島地域振興局(柳田様 鶴丸様)

●主な意見

- 委員 人口移動については、就職や進学など年代毎に原因が違うと思う。昼間人口より夜間人口の方が多く、生活基盤がいちき串木野市にあり、住民税を払っているのですんなりに悪いことではない。
そのような方のために、通勤の手当て等をした方が建設的だと思う。
- 委員 宿泊施設が市内に少ない。駅前に宿泊施設がないため、他市に泊まってもらうことがあるが、宿泊施設の設置の考えはないか
- 委員 既に数年前から言われている地域産物産地確立事業の中で菓草の話などは出てきている。レタス栽培農家がスタートしていることや新規就農者の支援もスタートしている。既存事業も書かれているが、検証がされているのか。今あるものをベースに検証を重ねて積み重ねながら新しいものを進めていくことがいいのではないか。
- 委員 人口を増やそうといっているが、宅地がない。農振法を撤廃しないと宅地が増えないと思う。また、県外・市外からきた企業にだけ補助をして、地元の企業に補助をしていない。今回40人雇用をしたが、何の補助もない。これでは地元産業は廃れていくので、地元企業を育てることを考えてもらいたい。地元企業がなければ、本市に住んでもらって他市に通勤してもらってもよいのではないか。
- 委員 第1に、組織を明確に増やしていく方向でないと雇用を増やすものになっていかないように思う。
第2に、観光の90パーセント程度は県内観光である。観光で決め手になるのは、直売所整備支援事業だと思う。蓬莱館を使っているのは、毎週イベントをやるなど

独自性・地域性をもっと出すべきではないか。

第3に、高速のルートが変わってしまっており、交通の問題を考えていった方がいいと思う。分野は絞った方がいいとは思う。PPSでは、1社ではなく、複数できて競争してもらった方がいい。新規創業・起業家支援事業に、大学も入れてもらいたい。ベンチャー企業などちょっとした企業を立ち上げるだけでも新規事業で、そういうものを行ったことのない人はわからない。外国人留学生について、いちき串木野市が積極的に誘致してもおもしろいのではないか。

委員 英語のまちについて、高校の英語の授業を英語で行っているところだが、鹿児島はまだ50パーセント程度で次は、中学生をターゲットに考えているので、地元の高校と中学校を100パーセント実施しても良いのではないか。

委員 市民みんなでかかわる方法として、土曜授業を使って企業人の職種を生かしたものをやったらどうか。

委員 空き店舗補助を若い人に補助を厚くするのはどうか。カフェや喫茶店などが出ると町の雰囲気が変わると思う。

委員 広域的に考えて、滞在型の民宿や企業参入をしていった方がいいのではないか。空き家や空き店舗を管理させてやる方法を作るのはどうか。木質バイオマスの事業があるが、どのくらいの規模でやり、木材の確保をどうするかも難しいことだと思う。

委員 会社を起こさせて、管理させるということや協議団体を活用して人を雇用したり定住人口を増やしたりするのもいいと思う。